

機器を介した感染から患者と私達を守るために

琉球大学医学部附属病院 手術部 久田 友治



第3回の機器と感染カンファレンスが3月10日、琉球新報ホールで開かれた。これは日本医科器械学会が主催したもので、今回は「機器を介した感染から患者と私達を守るために」をテーマとして、県内外から看護師、医師など約250名の参加があった。

まず、“針刺し界の若手ホープ”とされる吉川先生が、職業感染対策に関する安全器材の特徴と取扱いを中心に話をされた。次に、洗浄／消毒／滅菌について如何なる質問にも答えることができることと紹介された島崎先生の講演があり、このカンファレンスが、滅菌技師・士の単位付与になることもあり、洗浄／消毒／滅菌に関わる方々にとって有用なものとなった。講演ⅢとⅣでは県内の感染管理認定看護師である、お二人がそれぞれ現場でおこなっている一次洗浄消毒廃止への取り組みを報告した。最後の藤田先生の講演は病棟・外来における機器と感染—過去の事例に学ぶことと題し、多くの聴衆

の眼と耳を片時も離さない内容であった。講演後の総合ディスカッションにより、今回のカンファレンスが更に意義のある集まりになった。

紙面の都合で、講演Ⅰの要旨だけを下に記す。従来の“事故”の認識は“予測が難しく避けられない”であったが、最近の認識は“予測が可能で予防可能”へと変化している。針刺し切創対策として、鋭利器材を1) 使わない、2) 鋭利部を隔離する、3) 使用後に隔離又は遮蔽するがあるが、安全機能つき＝「針刺しゼロ」は間違いである。すなわち、鋭利器材を使っている以上、あくまでも“傷害リスクを減ずるものである”との認識が必要であり、計画的なトレーニングと教育が重要である。

機器を介した感染から患者と私達を守るためには、現場で働く看護師、医師、滅菌技師・士だけでは不十分であり、病院管理者の理解も必要であると思われた。

講演Ⅰ「安全対策機器、器材の正しい使用法」	：吉川 徹（労働科学研究所）
講演Ⅱ「手術部・材料部における機器と感染」	：島崎 豊（海南病院）
講演Ⅲ「中央化への取組み～現場での一次消毒廃止～」	：石川美根子（豊見城中央病院）
講演Ⅳ「病棟における一次洗浄廃止に向けて」	：真栄城咲子（浦添総合病院）
講演Ⅴ「病棟・外来における機器と感染—過去の事例に学ぶこと」	：藤田 次郎（琉球大学）
